

大阪＝水都のブランド形成へ—水都大阪2009、来年開催

去る6月10日、水都大阪2009実行委員会が開催され、2009年8月22日から10月12日の52日間にわたり大阪市内で行われる「水都大阪2009」の実施計画書が承認された。行政・経済界・市民が一体となり大阪の都市ブランドとして“水都”を発信する事業がいよいよ実施に向けて動き出す。

「水の都」大阪の再生と発信

「水都大阪2009」開催の経緯は、2001年に政府の都市再生プロジェクトの一つとして「水都大阪の再生」が決定したことにさかのぼる。翌2002年には「水の都大阪再生協議会」（会長：大阪商工会議所会頭）および「花と緑・光と水懇話会」（座長：大阪市長）という2つの組織が発足し、“水都”をキーコンセプトに官民協力により大阪の都市再生を進める体制がつけられた。

その後数年の間に、中之島公園や八軒家浜など水都大阪再生に向けた都市整備事業は着実に進み、大阪市内の水辺空間は目に見える形で変わりつつある。こうしたなかで、2009年をシンボルイヤーと位置づけ、魅力を増した大阪を広く人々に知らしめる機会として、さらには今後一層水都大阪に向けた機運を高める契機として実施するのが「水都大阪

2009」である。

もともと大阪のまちは市中を川が縦横に流れ、川は都市の物流を担うインフラとして人々の生活にとってなくてはならない存在だった。しかし戦後、防災・治水上の観点から防波堤が築かれ、護岸が整備された結果、大阪のまちと川との関係性は次第に薄れていった。現在、大阪都心部を空から眺めると、確かにまちなかに川は流れているが、建物は川に背を向けて建ち、人々が川辺に容易に降りていくことはできない。川の存在を日々の生活の中で感じるものが少なくなっているのが現状である。

都市間競争が激しくなるなか、大阪が世界のなかで存在感を高め、活力を持続させていくためには、人や情報をひきつけるだけの独自の魅力を発信することが必要である。その大阪独自の魅力・個性が“水の都”という都市ブランドであり、今回の水都大阪2009は、大阪がまちと川との関係を再考し、水都という都市ブ

ランドを確立するための事業と位置づけることができる。

事業概要—3つのプロジェクト、8つのプログラム

水都大阪2009は、中之島公園・八軒家浜周辺、水の回廊（堂島川、土佐堀川、東横堀川、道頓堀川、木津川で構成する口の字）およびまちなか（大阪市内各所）を会場に実施する。

全体の事業規模は連携事業を含めて約30億円で、このうち実行委員会が実施する事業は約9億円である。プロデューサーにはアートディレクターの北川フラム氏、大阪府立大学教授の橋爪紳也氏が就任し、総合アドバイザーには建築家の安藤忠雄氏が就任している。

事業は、「水都街なみプロジェクト」「リバーウォークプロジェクト」「舟運プロジェクト」という3つのプロジェクトのもと、8つのプログラムを軸に実施する（P. 9の上図）。

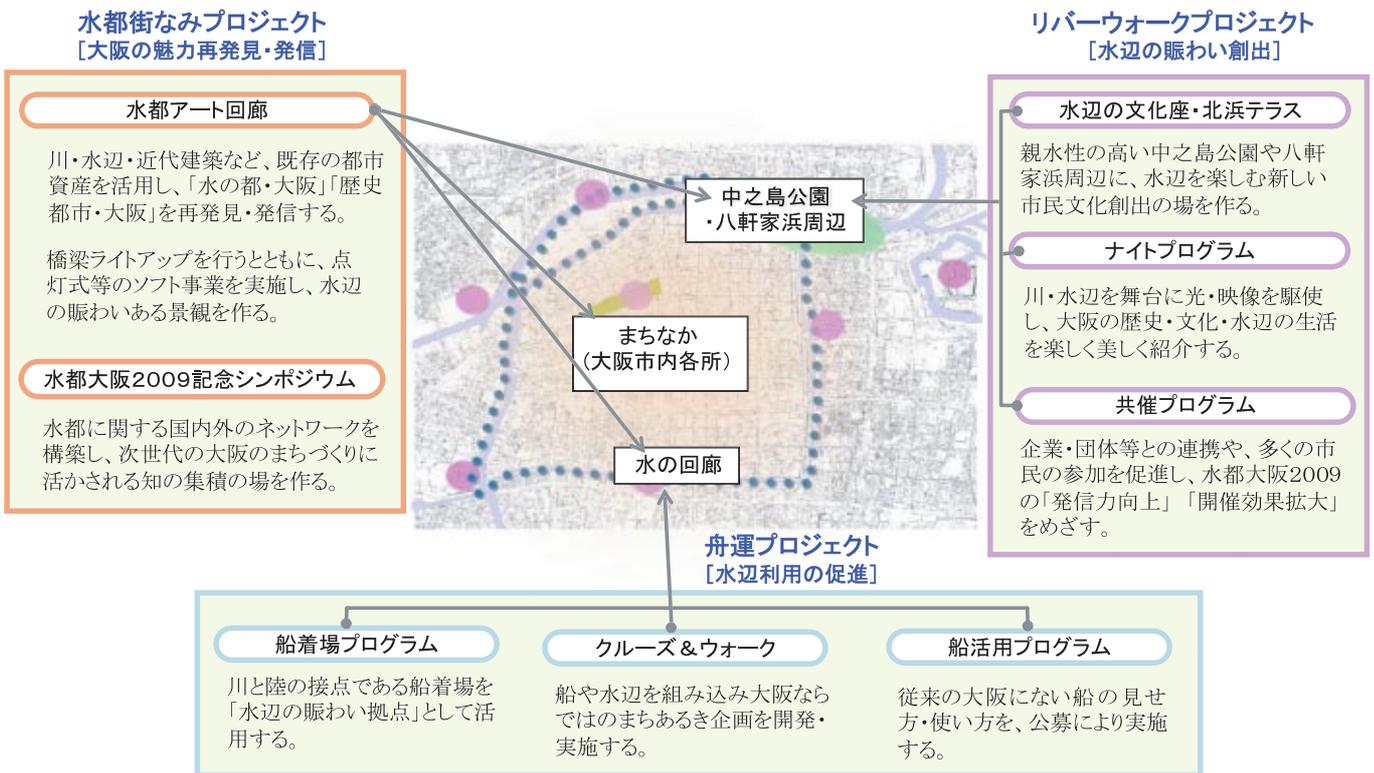
■水都街なみプロジェクト

「水都アート回廊」は、地域固有の資源である川・水辺を見直し、水都大阪の歴史に思いをはせ、水辺を眺め、水辺に集まるきっかけをアートを活用してつくるもの。川や橋梁、水辺の公園・緑地、近代建築、歴史スポットなど既存の都市資産を活用したライトアップ、アートコンテンツを展開する。大阪らしい景観

■水都大阪2009開催概要

テーマ	川と生きる都市・大阪
キーワード	連携・継承・継続
基本コンセプト	①水都大阪の魅力を創出し、世界に発信 ②市民が主役となる、元気で美しい大阪づくり ③開催効果が継続し、都市資産や仕組みが集積されていくまちづくり
開催日程	2009年8月22日(土)～10月12日(月・祝) [52日間]
主催	水都大阪2009実行委員会(会長：平松邦夫大阪市長)

＜実施プログラムの概要＞

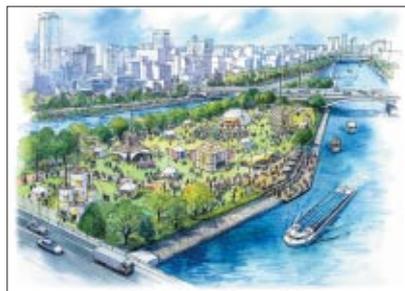


を創出するために天神橋・難波橋・錦橋の3橋のライトアップを実施するほか、専門家を招いての「水都大阪2009記念シンポジウム」も開催する。

■リバーウォークプロジェクト

「水辺の文化座」は、再整備された親水空間で水辺活用のプログラムを展開し、来場者に川と水辺の魅力を体感してもらうプログラム。中之島公園では、アーティストや公募で選ばれた市民が、点在するさまざまな形のブースで企画を展開し、八軒家浜では古くから交通の要衝として栄えた歴史性が感じられるプログラムを展開する。

また、夜間の屋外型イベントとして川と照明・映像等を組み合わせた「ナイトプログラム」も実施し、大阪の新しい夜の楽しみ方を提案する。



(水辺の文化座)



(船着場でのプログラム展開イメージ)

■舟運プロジェクト

「船着場プログラム」は、通常さまざまな規制により自由な利用が制限される船着場で、水都らしい先進的な都市観光コンテンツの開発促進や魅力的な舟運事業の誘発などを目的に、船屋(まちと川のインフォメーションセンター)、水上マーケット・朝市カフェ等の事業を実施するもの。そのほか、大阪のまちあるきを将来の観光資源にするための「ク

ルーズ&ウォーク」、船の新しい楽しみ方のトライアルなどを行う「船活用プログラム」も予定している。

水都大阪2009は、こうした具体的なプログラムの実施により、単なる一過性のイベントではなく、開催後に水都というブランドイメージや魅力的な景観、まちづくりの仕組みなどが将来に継承されることをめざしている。

(地域連携部 日高明子)